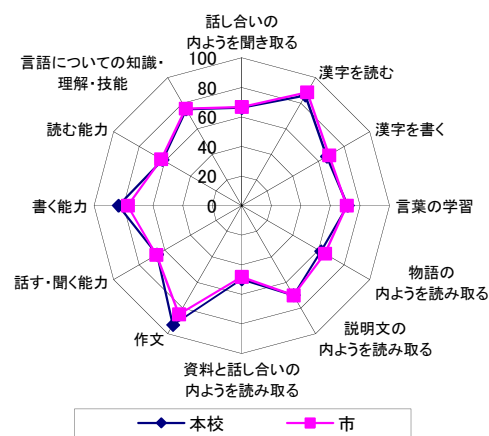


宇都宮市立宝木小学校 第5学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内ようを聞き取る	66.2	66.6
	漢字を読む	86.1	88.4
	漢字を書く	66.4	68.2
	言葉の学習	71.6	71.0
	物語の内ようを読み取る	62.0	64.9
	説明文の内ようを読み取る	70.0	70.1
	資料と話し合いの内ようを読み取る	49.8	48.3
	作文	93.2	84.9
観点別	話す・聞く能力	66.2	66.6
	書く能力	83.4	77.1
	読む能力	62.0	63.0
	言語についての知識・理解・技能	75.3	75.8



★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内ようを聞き取る	・話し手の意図や工夫を考えながら、話の内容を聞きとることは概ねできており、正答率も市平均とほぼ変わらない。しかし、司会者の役割を理解して適切な言葉づかいで話すことでは市の平均を1ポイント下回っている。	・「話すこと聞くこと」の単元では、話し手の内容を正確にとらえることができるよう、メモの取り方などについても指導をしていく。また、重要な語句などについても聞き取れるようにいねいに確認をしながら授業を進める。 ・各教科の授業や日常生活において、役割や相手に応じて適切な言葉づかいで話ができるよう支援していく。
漢字	・5学年の漢字の読みの正答率は高く、市の平均を上回った。しかし、4学年の漢字の書きと読みはともに正答率が低い。	・漢字スキルなどで新出漢字を指導し家庭学習で定着が図れるよう繰り返し指導していく。また、漢字スキルだけではなく、教科書で出てくる熟語等についてもその都度指導し、使用頻度を増やすことで語彙力を高めていきたい。 ・どこに書く文字でも既習の漢字は書けるよう指導し、日常生活において漢字を使う意識を育てていく。
言葉の学習	・漢字の成り立ちや同音異字の使い分けについては市の平均を上回っている。 ・ことわざの使い方や句読点の打ち方についての理解が不十分で、ともに市の正答率を3ポイント下回っている。	・文章を書く際には、前後の文章のつながりを考えながら書き、適切に句読点が打てるよう指導する。 ・国語辞典を使用し、新しい言葉の使い方などを例文で確認できるようにする。 ・ことわざ辞典やことわざに関する図書資料を紹介したり、使用するなどしてことわざに親しみがもてるようにし、理解を深めていく。
物語の内ようを読み取る	・場面の描写をとらえて表現の特徴をつかんで読むことはでき、市の平均を上回っている。 ・場面の情景を読み取ったり、登場人物の気持ちを読み取ることについては、市の平均を下回っている。特に、場面の情景を読み取ることについては5割程度と理解が低い。	・朝の読書の時間を活用し、文学的な文章に親しませる機会を増やす。また、読み聞かせボランティアの方の読み聞かせを通して、本に対する関心をさらに高めていきたい。 ・物語文の学習の際には、文章から読み取れる情景について、その文章と情景をノートにまとめるなど、ていねいに確認し、情景の読み取り方について指導していく。
説明文の内ようを読み取る	・文章の内容を的確に読み取ることについては概ね理解しており、市の平均とほぼ変わらない。 ・文章の構成を考えながら読み取ることについては、約6割程度の理解と不十分で市の平均を下回っている。	・説明文の学習では、形式段落をしっかりとおさえ、全体の文章との関わりについて考えながら読み、文章の構成のとらえ方を繰り返し指導していく。 ・文章の内容をとらえる際には、手がかりになる言葉や重要な文に気づかせ、筆者の意図をきちんと読み取らせるようにする。
資料と話し合いの内ようを読み取る	・全体の平均は市を上回っているが正答率は低い。 ・「与えられた資料を読み取り、求められている情報を的確に取り出すこと」は市の平均を下回っており、さらに正答率は37.8ポイントと低い。	・社会事象に関わる新聞記事を紹介するなどして、新聞や資料に親しむ機会を増やしていく。 ・新聞記事や資料を読み取る際には、キーワードとなる言葉に線を引かせるなどして、正確に情報が取り出せるようにする。
作文	・全ての観点について市の平均を上回っている。自分の意見に対する理由を述べ、指定された長さで文章を書くことができる。	・今後も、良い文章に触れさせる機会を設け、段落の取り方や言葉の使い方についても理解を深められるようにする。 ・各教科で、事象に対する自分の意見を書く機会を設け、書くことに慣れさせていく。また、自分の意見を段落ごとにまとめて書くことにも慣れさせ、より明確な文章が書けるよう日々の指導を進めていく。